

## 博 修 士 会 会 報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors

2019年7月1日発行

▲東体育館



## ごあいさつ

関西大学博修士会会長 北嶋 弘一

「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」(万葉集、巻五、梅花の歌三十二首并せて序)より、新元号が「令和」と命名されました。「大化」より「平成」までは儒教の経典「四書五経」などの漢籍を典拠としてきたものを、我が国の豊かな国民文化、長い伝統を象徴する国書に由来した新元号により、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができるような日本であるようにとの願いが込められたもので、災害の少ないそのような時代が来ることを切望するのは誰しもが思うところであり、関西大学もそのような良き時代を迎えることとします。

関西大学博修士会は、昭和27(1952)年の設立以来、本年度創立68年目を迎えます。会員の皆様におかれましては、各地ならびに各界においてそれぞれで活躍のこととお慶び申し上げますとともに、本会の活動に対しまして心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付など平素より数々のご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

これまでの関西大学大学院修了生の総数は21,000名を超え、校友会組織(約47万名)の中でも大所帯の同窓会の一つとして発展を遂げております。現在の関西大学大学院は、法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康の13研究科博士課程前期課程と同後期課程および法務、会計、臨床心理の3専門職学位課程の計16研究科

を擁する我が国屈指の大学院に発展、成長しております。

去る3月22日に举行されました学位記授与式では、541名の修士と76名の専門職を合わせた617名の修了生および47名の博士の計664名を本会の新たなメンバーとして迎えるとともに、昨年9月期の学位記授与式では32名の修士と5名の専門職の計37名の修了生および15名の博士を迎えました。さらに、4月2日に行われました入学式では16研究科672名および昨年の秋学期入学生30名を加えた702名のフレッシュな学生会員を迎え、創立133年目を迎えた母校の学問の中核として発展の一翼を担っていただくことを期待するものであります。

来る7月27日(土)に令和元年度関西大学博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会を開催いたします。総会後の学術講演会では、Vision150において関西大学改革の具体像としての“研究、教育、社会連携、国際活動”を練り上げるために尽力されている副学長で国際部長であるシステム理工学部教授の前田裕先生をお招きし、「関西大学における国際化の取り組み」と題して国際活動の現状について昨年新築されました東体育館のミーティングルームにおいてご講演いただきます。

会員の皆様には、公私にわたり何かとご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上でご出席いただき、講師の前田先生と親しく懇談していただきますようお願い申し上げます。

## 令和元年度 総会・学術講演会・懇親会のご案内

日時：令和元年7月27日(土) 12:30より受付開始

場所：関西大学千里山キャンパス：  
千里山東体育館 ミーティングルーム

内容：第1部：総会  
13:00～14:00 ミーティングルーム

第2部：学術講演会  
14:00～15:00 ミーティングルーム

演題：「関西大学における国際化の取り組み」  
講師：前田 裕先生(関西大学副学長・国際部長)  
(関西大学システム理工学部教授)

第3部：懇親会  
15:10～17:00 凜風館2階生協食堂内

総会・懇親会参加者：会員+会員の紹介者に限定  
(事前申込制：郵便振替とする)

総会・懇親会会費：会員+同伴者は5,000円、院生会員は無料

お願い：ご出席の方は、7月19日(金)までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

■郵便振替：00900-2-68733  
関西大学博修士会：  
通信欄に「総会費」など  
ご記入下さい。  
■問合せ先：博修士会総務部  
06-6380-8476  
■FAX：  
校友会 気付 博修士会 宛  
kandaiamd@muse.ocn.ne.jp  
(総務部：中原 宛)



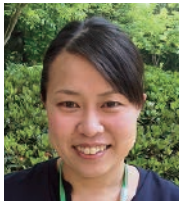
関西大学  
システム理工学部教授  
副学長・国際部長

前田 裕先生

■はがき：〒564-8680  
吹田市山手町3-3-35  
関西大学校友会事務局気付 博修士会

# 会員からのメッセージ

## 研究者としてステップアップ



山本 阿子  
(平成30 博 社会安全研究科)

この現象は何を意味しているのか。日々職場や現場で頭を悩ましていることが、今の私にとって何よりも幸せであると感じています。

些細な疑問や好奇心から地震や津波などの現象や津波による堆積物に興味を持ち、修士課程までの6年間を高知で過ごし、このまま研究を続けたいという想いもありましたが、地元に戻り教員として勤めることにしていた2011年、修士論文を書き上げた3月に、大学に設置されていた警報機から今まで聞いたこともない警告音が鳴り響き、私は研究室のテレビから流れる津波の映像を食い入るように見つめていました。今までにない壮絶な自然現象を目の当たりにし、何とも言えない感情と無力さ、今この瞬間に研究の現場を離れることの悔しさを強く感じたことを今でも鮮明に覚えています。教員での5年間、辛いことも多かったです。子ども達と過ごした日々は本当に有意義であり、私自身が大きく成長できるきっかけを与えてくれました。しかし、どうしても研究に対する気持ちが断ち切れず、3年前もう一度研究の現場に戻りたいと決心し、5年間勤めた教員を退職しました。やっと就職し地元に戻ってきたと安心していただけでしたが、わがままを通して進学しました。

社会安全研究科の高橋智幸教授との出会いにも恵まれ、研究者として遅すぎるスタートではありましたが、津波による土砂移動の数値計算を習得するために、多くのサポートや経験をさせていただきました。水理実験やシミュレーションという技術面だけでなく、国内や海外の学会での発表などを通して多くの研究者の方や学生の方と出会うきっかけも得られました。今、こうして津波や土砂に関する研究が続けられる職業に就けたことも、本当に有難いと感じています。職場では、これまでの研究に樹木に関する研究が加わ

り、津波に対する樹木の効果と防災機能を管理する技術開発に取り組んでいます。新しいことを始めるには、いつでもエネルギーがいることですが、この3年間で得られた技術と経験、そして自信が今の私の原動力となっています。

研究者として5年間の教員生活をビハインドであると感じられることもあります。研究に費やした時間という面では、私もそう感じることはあります。しかし、私は後悔したくないし、決して無駄ではないと思っています。むしろ今ではよかったと感じています。今だからこれだけ頑張れたと思うし、今だからこれだけ沢山の人と出会え、全てに感謝し、辛い時期も乗り切れたのだと感じています。これからも悩むことがあるかと思いますが、今この瞬間の出会いと経験を大切に、いつでも何度でも全力で挑戦できる自分でありたいと思います。これまで心配をかけた家族や支えてくれた人への感謝の気持ちを忘れず、これまで得られたことを、少しでも還元できるよう努力し、今新たに一人の研究者としてスタートし、これからもステップアップできるよう頑張っていきます。

## 「研究」と「実践」の狭間で



小森 高也  
(平成30 修 総合情報学研究科)

私は関西大学に入学した当初、なんとなく教員免許を取ろうと思い、教職の授業を受けていました。ゼミに入るまでの2年間はただ授業を受け、単位を取ることに必死でした。とりあえず、大学を卒業し、教員免許を取ることしか考えていなかったのです。しかし、3年生になる前に決めるゼミで久保田賢一先生に出会い、久保田先生のゼミに入ってから私の大学生活は一変しました。そのゼミで私は、様々な活動に携わりました。フィリピンでのスタディツアーや、後輩とハワイでの環境活動プログラムにも参加しました。さらに

他大学とのワークショップ、小学生、高校生向けのワークショップ、実際の学校現場での活動も行いました。ゼミに入ってから2年間は、それまでのただ授業を受ける2年間とは全く異なるものになりました。様々な土地に出向き、様々な人たちと出会い、その中で様々な価値観や考え方に触れ、自分の視野の狭さや力のなさに気づくことになったのです。それと同時に、もっとこのゼミで学びたいと思うようになり、久保田・黒上研究室に進学することを決めました。それは、自分の2年間での学びはなんだったのかをはっきりさせるためでもありました。研究室での2年間は、ただ、活動に没頭していた2年間が言葉になっていく気がしました。私たちが何を学んでいるのか、どのように学んでいるのか、頭の中ではなんとなくわかってきたものが、指導教員の先生方との議論の中で紐解かれていったのです。それは「学び方の学び」です。自分たちが行っていたフィリピンや高校生との活動は、ゼミの先生が準備した「実践」であり、それを大学院では「研究」という目線から、ゼミでの2年間で私が、どのような学んでいたのかを学んだのです。

修士論文の執筆では、これまでの学んだことの集大成として研究に取り組みました。私の研究は授業実践を行い、新しい授業の手立てを考えることでした。これまでは「実践」を受けていた私が、「研究」という

目線で生徒のために「実践」を考える立場となりました。実践をし、研究を進めていくために、研究室の先生方や先輩方に相談をしながら授業デザインや授業の手立てを考えました。そこでは様々な壁にぶつかりました。「研究」ばかりに目が行き、授業を進めることに意識が向き、生徒をみることができなかったこともありました。反対に、「実践」を意識しすぎて、「研究」のデザインを変えることになったこともありませんでした。そもそもこの授業は生徒のためになのに、それすらも忘れてしまうこともありました。しかし、その「研究」と「実践」の目線の2つを持つこと自体が、授業を進めていく上で重要であったのです。授業をただ「実践」するだけでなく、その実践によって生徒はどう変わったのかということの形にすることが「研究」であり、その研究結果を元に、また「実践」されるのです。そのことに気がついた私は、なんとか修士論文を書き上げることができました。

この関西大学での6年間は私にとって人生の分岐点になりました。久保田先生と出会い、久保田・黒上研究室で様々なことを学びました。ここで学んだことを糧に、関西大学・大学院での卒業生として誇りを持ち、その名に恥じぬよう社会に貢献していきたいと思えます。

### 博修士会からのお願い

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様にお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また、終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

#### 特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略) (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

天井 一夫	網本 浩幸	飯田 幸雄	大倉 俊	緒方正 則
岡本 哲和	笠原 俊幸	勝矢 花奈子	加藤 正利	北嶋 弘一
北村 英子	木村 昌司	桑田 順市	小林 和代	後藤 安子
竿田 嗣夫	笹倉 淳史	早苗 良雄	鹿田 幸治	篠塚 義弘
田中 充弘	田邊 咲智	綱木 寛	中原 住雄	錦織 利治
西崎 義男	羽間 弘	羽生 和子	濱谷 美綺	東村 高良
飛田 篤	古橋 秀章	松島 宣樹	松本 始	松村 弘
明神 信夫	山本 善章	横田 伸敬	横山 清美	

# 大学院ニュース

Graduate School News



## 関西大学におけるCOIL (Collaborative Online International Learning、オンライン国際交流学習)

システム理工学部教授

副学長・国際部長 **前田 裕**

2018年度に文部科学省の大学の世界展開力事業において、関西大学の「グローバル・キャリアマインドを培うCOIL Plusプログラム」が選定されました。COIL (コイル) とはCollaborative Online International Learningの略称で、ニューヨーク州立大学のRubin教授の提唱するオンライン国際交流学習のことを意味します。2014年、関西大学はCOILを用いた授業を国際部の提供する科目の一部に導入しました。情報通信技術を用いて、海外の大学の授業と繋がるという要素と共に協働して学ぶという点が特徴的です。

MOOCs (Massive Open Online Courses) や遠隔教育での学生のオンライン教材へのアクセスを中心とした学習とは異なって、COILでは、海外と国内の2つのクラスの学生の双方向のコミュニケーションと学生同士の協働の学びに最大の焦点が置かれます。海外と国内のクラスが、授業の時間帯で直接繋がり(同期型)、あるいは、時差などの関係で同期型の運営が行えない場合はFacebookなどのSNS (Social Networking Service) を用いて授業時間外に交流を行う形で(非同期型)、様々な共修活動を行います。学生たちが授業内外でコミュニケーションを行い、プレゼンテーションやレポートを提出し、クラス全体でSNS上で共有しながら授業を進めます。

関西大学では、2019年度29のCOILを利用した科目が、学部と大学院にわたって設定されています。これらの科目では、学生はキャンパスにいながら、異

なった文化的背景を持つ学生と異言語でのコミュニケーションをとり、協働作業を通して、異文化理解をはじめとする国際性を身につけることができます。また、COILを用いた科目はアクティブラーニングの側面を持つため、コミュニケーション能力を高めることに役立ちます。異なった文化や留学に対する興味を増し、自分の将来を見つめることにも繋がります。

COILは、前述したようにPBL(Project-Based Learning)のようなグループ学習を中心とした科目に特に有効です。科目の内容を、多面的により深く理解し、実社会との関係を国際的な視点から考える上で、よい教授法といえます。COILを用いた科目の普及と共に、カリキュラム全体の中でどのように配置していくのが効果的かを検討していくことが必要です。特に、大学院での学びでは、それぞれの専門について、理解を深化させ、新たな発想を生み出すという点からも効果が期待されます。

さらに、文部科学省の選定事業の中で、関西大学はCOIL型授業の日本の大学への普及をはかるプラットフォーム校としての役割を担っています。JPN-COIL協議会を昨年12月に設置し、現在20の大学と3団体が加盟しています。国際化、国際交流が課題となっている日本の高等教育でのCOIL型授業への期待を背景に、その普及を進めていきたいと思えます。

# 先輩のご活躍



## 私の「学の実化」・ 国家プロジェクトSIPへの挑戦

大阪冶金興行株式会社 代表取締役 **寺内俊太郎** (昭和46 博 金属)

この度、当社が参加しました内閣府のSIP・第2期プロジェクトに関してご説明します。

本プロジェクトは私が母校関西大学・工学部金属工学部を卒業後、実家の事業であります金属材料の熱加工業を引き継ぎ、金属材料加工に必要な加工技術、①真空熱処理加工、②金属の粉末射出成形加工、③金属粉末製造技術・設備、そして④金属材料の積層造形技術・設備等を50年間にわたって蓄積実践してきた経験と実績の集大成の感が致します。

まさに母校の建学の精神「学の実化」そのものではないかと思いを馳せています。

SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が司令塔機能を発揮して、科学技術・イノベーションを実現するために創設した国家プロジェクトです。国民にとって真に重要な社会的課題や、日本経済再生に寄与できるような世界を先導する重要な11の課題について、府省連携、産学連携を以って基礎研究から実用化を見据えて、一気通貫で研究開発を推進する課題であります。その課題の一つが「革新的構造材料」であります。

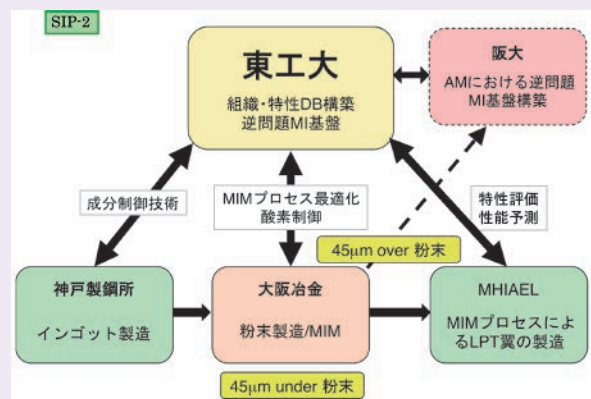
「革新的構造材料」では、航空機のエンジンおよび機体に用いられる部材を主な対象に、4つの領域で研究開発を推進しています。

- (1) 航空機用樹脂の開発とCFRPの開発
- (2) 耐熱合金・金属間化合物等の開発
- (3) セラミックス複合材料の開発
- (4) マテリアルズインテグレーション (MI)

これらのプロジェクトは2014年に5年間で1期間として2期間、10年間を目処としてスタートしています。記事掲載紙面の関係で詳細な報告は出来ません

ので、本プロジェクトのメンバーと担当部門、当社の技術・設備、プロジェクトの概要を図示して説明に変えさせていただきます。

### 1. 研究開発実施体制図（産学官連携）



### 2. SIPに必要な当社の技術・設備



### 3. プロジェクトの概要

#### 高性能TiAl合金動翼の粉末造形プロセス開発と基盤技術構築

需要が増しているTiAl製低圧タービン動翼を設計の自由度が高い粉末プロセスにより開発することを目標に、材料工学と情報工学の融合により、その開発に資するMI基盤の構築（順課題）と検証（逆課題）を産学連携にて実施する。大学が設計し、企業側が製造する無二の「カスタマイズ粉末」を金属粉末射出成形法（MIM）とAMIに同時に適用し、MI基盤の逆問題への適用と検証はMIMにて行い、それらの知見を将来の産業力強化に生かす。



国立研究開発法人 科学技術振興機構HPより引用  
C領域「逆問題MIの実構造材料への適用（粉末・3D積層）」  
<https://www.jst.go.jp/sip/p05/team-c.html>

# 総会議案書

## 〈第1号議案書〉

### 平成30年度事業報告

平成30年4月1日から

平成31年3月31日まで

#### [1] 総会に関する事項

平成30年度 総会・学術講演会・懇親会

開催日時：平成30年7月28日（土）13:00～

開催場所：関西大学梅田キャンパス：7階 701号室

来賓：矢野 秀利 学校法人関西大学 常務理事

吉田 宗弘 関西大学 副学長（研究推進担当）

玉置 栄一 関西大学校友会 副会長

仁井ひろみ 女子秀麗会会長

◇第1部 総会 13:00～14:30：7階 701号室

(1) 平成29年度事業報告

(2) 平成29年度収支決算および監査報告

(3) 平成30年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会 14:30～15:30：7階 701号室

演題：「KU-ORCAS—オープン・プラットフォームが切り拓く新しい人文知の未来—」

講師：内田 慶市 先生（関西大学外国語学部教授）

（関西大学アジア・オープン・リサーチセンター長）

◇第3部 懇親会 15:30～16:50：7階 701号室

#### [2] 役員会に関する事項

##### ◇理事会

・平成30年4月7日（土）17:00～

新関西大学会館南棟4階 チルクコ

（平成30年度総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算・役員改選の件、その他）

##### ◇常任理事会

・平成31年2月23日（土）14:00～

関西大学校友会父母会館 校友会長室

（修士記授与式・入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、2019年度総会・学術講演会・会報発行計画、会計中間報告等）

##### ◇その他

(1) 平成30年4月2日（月）

・大学院入学式に出席（千里山中央体育館）（会長コーナ）学生会員への勧誘資料配布（総務部・広報部・財務部・事業部）

(2) 平成30年4月8日（日）

・2018スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加（会長コーナ）

(3) 平成30年6月9日（土）

・校友会第111回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・財務部・総務部）

(4) 平成30年7月1日（日）

・「会報2018年号」を編集・発行（広報部）

(5) 平成30年7月7日（土）

・全国組織代表者会議（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ）

(6) 平成30年9月24日（月・祝）

・関西大学フェスティバル in 東海（名古屋マリオットアソシアホテル）に出席（会長コーナ）

(7) 平成30年10月14日（日）

・平成30年度校友会総会（関西大学BIGホール100）に出席（全部署）

(8) 平成31年1月15日（火）

・校友会新年互礼会（大阪新阪急ホテル）に出席（会長コーナ）

(9) 平成31年3月22日（金）

・大学院学位（修士・専門職）記授与式（関西大学BIGホール100）に出席（会長コーナ）

・新会員の入会勧誘資料配布

（総務部・財務部・広報部・事業部）

・記念写真撮影

（総務部・財務部・事業部・広報部）

(10) 平成31年3月23日（土）

・第112回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・財務部）

## 〈第2号議案書〉

### 平成30年度収支決算報告書

#### 一般会計収支決算書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

#### (収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常収入	830,500	805,001	25,499
1. 会費収入	300,000	342,000	▲42,000
① 正会員入会金収入	60,000	45,000	15,000
② 院生会員入会金収入	240,000	297,000	▲57,000
2. 事業収入	180,000	95,000	85,000
① 総会会費収入	150,000	95,000	55,000
② 広告料収入	30,000	0	30,000
3. 雑収入等	50,500	37,001	13,499
雑収入	50,000	37,000	13,000
受取利息	500	1	499
4. 特別協力金等	300,000	331,000	▲31,000
特別協力金収入	300,000	331,000	▲31,000
前期繰越金	674,845	674,845	0
合計	1,505,345	1,479,846	25,499

#### (支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常支出	1,123,000	817,322	305,678
1. 一般管理費	223,000	90,186	130,814
① 通信費	50,000	17,790	32,210
② 事務用消耗品費	80,000	60,480	19,520
③ 支払手数料	13,000	10,236	2,764
④ 雑費	80,000	3,680	76,320
2. 会議費	280,000	198,936	81,064
① 総会費	200,000	152,356	47,644
② 諸会議費	80,000	46,580	33,420
3. 事業費	620,000	526,200	93,800
① 印刷費	480,000	476,820	3,180
② 修士記授与記念写真費	100,000	49,380	50,620
③ 記念品費	40,000	0	40,000
予備支出	30,000	0	30,000
予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計	1,153,000	817,322	335,678
次期繰越金	352,345	662,524	▲310,179
合計	1,505,345	1,479,846	25,499

# 総会議案書

## 特別会計収支決算書

### 奨学金特別基金

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,204,955	次期繰越金	1,204,967
受取利息	12		
合計	1,204,967	合計	1,204,967

### 名簿特別勘定

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	853,570	次期繰越金	853,578
一般会計より入金	0		
受取利息	8		
合計	853,578	合計	853,578

## 財産目録

平成31年3月31日現在

(資産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな/難波)	60,571
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	566,180
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	35,773
小計		662,524
普通預金	特別会計 奨学金特別基金用(りそな/難波)	1,204,967
普通預金	特別会計 名簿特別勘定用(りそな/難波)	853,578
合計		2,721,069

(負債及び正味財産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
正味財産	次期繰越金	2,721,069
合計		2,721,069

## 監査報告書


関西大学博修士会  
会長 北嶋 弘一殿


私たちは、平成30年4月1日から平成31年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。

監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。

令和元年5月9日

監事 澤 勲 

監事 竿田 嗣夫 

監事 水野 一郎 

## 〈第3号議案書〉

### 平成31年度 一般会計収支予算(案)

自 平成31年4月 1日  
至 令和 2年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常収入	830,100	
1. 会費収入	300,000	
① 正会員入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
② 院生会員入会金収入	240,000	院生会員入会見込 12,000円×20人
2. 事業収入	180,000	
① 総会会費収入	150,000	総会出席見込 5,000円×30人
② 広告料収入	30,000	広告掲載見込 10,000円×3件
3. 雑収入等	50,100	
① 雑収入	50,000	お土産料、記念写真代他
② 受取利息	100	預金利息等
4. 特別協力金等	300,000	
特別協力金収入	300,000	
前期繰越金	662,524	
合計	1,492,624	

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常支出	1,143,000	
1. 一般管理費	223,000	
① 通信費	50,000	総会、役員会案内発送費
② 事務用消耗品費	80,000	文房具、事務用品費
③ 支払手数料	13,000	振込、振替送金手数料
④ 雑費	80,000	
2. 会議費	280,000	
① 総会費	200,000	懇親会費
② 諸会議費	80,000	役員会会議費等
3. 事業費	640,000	
① 印刷費	500,000	会報、総会案内状印刷費
② 修士記授与記念写真費	100,000	
③ 記念品費	40,000	
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,173,000	
次期繰越金	319,624	
合計	1,492,624	

\* 予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

## 2018年度第66回博修士会 総会・学術講演会



学術講演会

平成最後となる総会は、7月28日（土）13時から関西大学梅田キャンパス7階の701号教室で行われた。当日、矢野秀利常務理事、吉田宗弘副学長、玉置栄一校友会副会長、仁井ひろみ女子秀麗会会長が来賓として出席された。

総会では、物故者に黙とうをささげ、学歌斉唱した後、来賓の方々からご挨拶を頂戴した。その後、総会の議事に移り、会則に則って議長の前嶋会長、副議長の明神会長代理の下で平成29年度の事業報告と収支決算報告について審議され全会一致で承認された。また、平成30年度の予算案についても全会一致で承認された。なお、本年は役員改選の年にあたるため、会則第9条に基づいて各役員は総会で選出されることになっているが、その選出方法については、議長が役員選考委員を指名し総会で承認後、役員選考委員が役員を選考するというこれまでの方法に準拠して行われることとなった。その結果、会長には前嶋弘一氏、監事には水野一郎氏、竿田嗣夫氏が指名され、全会一致で承認された。その他の役員については後日発表することについても承認された。

続いて、学術講演会に移り、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）長の内田慶市教授から「KU-ORCAS—オープン・プラットフォームが切り拓く新しい人文知の未来—」と題して、関西大学の東アジア研究を基盤として新設された同センターが将来どのような学術的貢献を国内外に向けて行っているかについてご講演をいただいた。関西大学の特色ある豊かなリソースを基盤として東アジア文化研究のデジタルアーカイブを構築し、その活用を通じて東アジア文化研究の世界的研究拠点としてブランドを確立していきたいとの意気込みを語られ、参加者一同、感銘を受けた。

講演後、同教室において、懇親会が開催され、仁井ひろみ女子秀麗会会長の乾杯のご発声ではじまり、参加者一同、終始和やかな歓談のなかで楽しい時間を過ごすことができた。

（博修士会 広報部）

## 664名の新博修士の誕生 672名の新入生を迎える



2019年度 大学院入学式

2018（平成30）年度関西大学大学院学位記（修士・専門職）授与式は3月22日に千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。学位被授与者は前期課程（修士）541名、専門職76名の合計617名であった。当日の会場は、修了生とそのご家族で満員であった。また、47名の博士が誕生した。

修了生に対して芝井学長は、130年前に挙行された本学最初の卒業式に言及し、最初の卒業生の気概に負けない誇りと意欲を持って社会で活躍していただきたいと激励した。

2019（平成31）年度大学院入学式は4月2日に千里山中央体育館で行われた。春学期の入学者は博士課程前期課程510名、博士課程後期課程57名、専門職大学院105名、合計672名であった。

新入生に対して芝井学長は丁度100年前に施行された「大学令」に関連して、大学昇格に尽力した先人の熱意と努力、そして当時から大学院で研究すること「文化の進展に寄与すること」を目的としていることについても考えていただきたいと式辞を送られた。

（博修士会 広報部）

お知らせ！

関西大学博修士会

検索



ホームページも見てください！

<http://www2.kandai-koyukai.com/al/kandai-md/>

博修士会会報 2019年号

2019年7月1日 発行

発行人 北嶋 弘一 編集人 篠塚 義弘

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
関西大学校友会事務局気付